

# 礼拝さいこう

## 思い巡らせるマリア ～2016年クリスマスに～

所沢キリスト教会牧師、「賛美歌検討委員会議」委員 坂本 献

「賛美歌検討委員会議」では2016年春に行われた「第12回全国礼拝音楽研修会」での「ことばのフォーラム」の資料の一環となすために、日本バプテスト連盟に設置されている6特別委員会、1委員会（「障害」者と教会委員会）に対して『新生讃美歌』についてのアンケートを行いました（「第12回全国礼拝音楽研修会 報告書」参照。なお、今後、2017年度に出版予定されている「新生讃美歌ブックレット」において紹介や学びの資料とする予定がある）。その中の「性差別問題特別委員会」の回答の中で153番「エッセイの根より生い出でたる」、167番「天にはさかえ」、257番「起きよエルサレム」の3曲について「『おとめ』処女イデオロギー、聖書的でもない（パルテノスの訳）」という指摘がありました。

この指摘が含んでいる課題から対話を試みつつ、考えてみたいと思います。この指摘は「おとめ」がイエスの母「マリア」との関連で「処女降誕」と関連づけられる場合です。

この意味内容については後に語るとして、まず指摘されているギリシャ語「パルテノス」ですが、この言葉は新約聖書ではイザヤ書7章14節の引用になり、ヘブライ語原典では「アルマー」で「若い女性」という意味です。イザヤ書においては「メシア待望」が主で「処女性」は考えられていないと思います。しかし旧約ヘブライ語原典をギリシャ語に訳したいわゆる「七十人訳聖書」で「アルマー」を「パルテノス」と訳したのです。「パルテノス」には「若い女性」の意味もありますが、とりわけ当時の社会的背景にあった女神「アテナ」の形容詞として「処女」の語義が強く含まれたので、イエスの「神性」を強め、その母マリ

アにもより特別な意味を持たせる方向として「きよい」「罪がない」「神の子を宿した特別な母」「処女」と意識され用いられた可能性があります。その可能性に立つ時、どのような作用を人間にもたらすのでしょうか。

「マリア」のイメージは「聖母」という言い方があるように、あえて言えば、「女性は心美しくあらねば（聖潔・貞淑）」であり、「女性は神の言葉に従い祈ることに徹せよ（従順）」、「女性は控え目を出しやばらないものだ（清楚）」、という（男性中心的）社会において「模範的」となる女性像、母親像をあてはめ、価値観や道徳観、社会的地位の固定を教育し植え付け、社会や教会の指導者（男性、女性を問わず）が望むことと結びつけられました。その先には「性差別」を生み出す土壌をつくりだすことにもなります。

マリアがイエスを産んだ時は16～18歳位でしょうか。妊娠については何か彼女に「自己卑下させるような」状況が起こった可能性はあるでしょう。ただし「命」の誕生は神の働き、聖霊の働き、神のみ心がなくては有り得ないことは確かなのです。

さて、上記のことを考えつつ、指摘された賛美歌を見ていきましょう。まず「起きよエルサレム」についてはマタイ25章の「花婿を待つ十人のおとめ」を土台とした賛美歌であり、ここで「処女イデオロギー」を読み込む必要はないと思います。なぜなら同じおとめでも、「油」を用意していたか、いなかったかが問われることであるからです（もし誤った理解であるなら教えてください）。

167番「天にはさかえ」には2節で「処女にやどり」でルビとして「おとめ」を記されています（なお、153番については後の「クリスマス賛美歌紹介」を参照）。C・ウエスレーの“Hark! the herald angels sing”の翻訳になりますが原詩には確かに“Off-spring of a virgin’s womb”とあります。

ちなみに「讃美歌（1954年版）」98番「あめにはさかえ」2節は「さだめたまいし 救いのときに神のみくらを はなれて降り いやしき賤（しず）の 処女（おとめ）にやどり 世びとのなかに 住むべき為に いまぞ生れし 君をたたえよ」です。「讃美歌21」では冒頭を原詩の“Hark!”を生かし「聞け、天使の歌」と始まり、さきほどの2節の歌詞は「神の時満ちて おとめに宿り」となっています。「讃美歌21」では「おとめ」と平仮名表記にすることで「処女イデオロギー」について配慮されているのかもしれませんが。

「処女」で生まれたからこそ、「神の子」であるとの信仰告白のその重さ、強さはそれぞれの信仰者で異なるでしょうし、「処女降誕」なくして「イエスは神の子である」とは言えない、という思いがある方は多くいらっしゃるでしょう。私自身も青少年期に過ごした教会では礼拝で「使徒信条」を告白しており、その言葉は自然に自分の中に入り込んできた信仰です。

そして、今、数十年の信仰者としての歩みを経て感じるのは、「処女降誕」でなければ今日、私たちはイエス・キリストを「神の子」また「救い主」と告白できないのかということです。私自身、福音書に示されている公生涯におけるイエス・キリストの歩みと行動、そして言葉において、さらに、あの悲惨な「呪いの木（＝十字架）」で人間の罪の力により殺され、そして死からよみがえられたイエス・キリストが「神の子」であり「救い主」であるとの告白をするのに、あのローマ百人隊長（マルコ15章39節：彼はイエスが処女から生まれたなどということは知らないだろうし、そのことを知る必要もなかった）と同様に、「処女から生まれたから」という事がイエスへの信仰を生み出す「決定的な事柄」であると思えないのです。

述べてきたように「処女降誕」がこの世界に人間によって現実的に語られる時、時に人間に対する価値観として固定されてしまう危険があるでしょう。「価値観の固定」は福音書に出てくる「律法学者」や「一般の人」と同じく、人を裁くことができない

人間が、人を裁く根拠にされていく危険があります。その時、「福音」が「救い」の「壁」を作り出すことにもなります。

ここまで述べてきたことは今日思う私の個人的な見解であり、「処女降誕」を否定するのではなく、イエスの語ったより大事なメッセージに心を向けることが、「福音」を生きるように招かれている私どもにとってより必要なことだと思うのです。加えてもう少し、マリアについて思い巡らしてみましよう。

マリアのユニーク（独自）さとして消されなかったのは、御使いガブリエルの言葉にすぐにひざまずくのではなく、反論をしたことです。ヨセフは（聖書では）一切沈黙していますが、マリアは「御使い」と対等に対話する人でした。さらに日常から飛び出し（いや、周囲の理解があったかも）、身重でありましたが親戚エリサベトのところに三カ月行きます（そこには結婚前に「妊娠」したことに対する世間の目があったかもしれませんが、家族や社会に反抗する「家出」だったのかもしれませんが。いずれも想像でしかありません）。出産直前にはローマ帝国の命令で故郷ベツレヘムの旅をします。強いられただけでもあったでしょうが、元気で活発、即行動という思い切りのよい人間かもしれません（この見解は否定的でも肯定的でもなく、常識的でも非常識的でもなく、そこに映し出されるのは自分の姿かもしれません）。

また母親としては、夫を早く失い、「寡婦」として苦労があったことでしょう（「寡婦」の辛さや悲しみは聖書に度々強く記されています）。そして宣教活動を始めたイエスの行動について人々から「あなたの息子は気が狂っている」と差別的に言われ、イエスの活動をやめさせ、連れ帰ることを考えなければなりません。そして息子が当時の権力によって処刑される状況を見なければならぬ女性でもあり、復活の証人ともなった女性です。なお、旧約聖書でのマリアの名はモーセの姉「ミリアム」（ヘブライ語）と同じです。ミリアムは賛美歌を歌う人（出エジプト記15章20～21節）であり、いつのまにかその存在が消された人でもあります。

マリアが歌った賛美歌（最初の言葉をとって「偉大なる」を意味する「マグニフィカト」や「マニ

フィカト」と呼ばれる)であるルカ福音書1章47～55節にある「権力ある者を…引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし…」という言葉は当時(いや、今もそうですが)の社会や社会構造、政治のあり方への対抗的な姿勢を示すと共に、平和を祈り求める姿が見られます。その祈りは主イエスの言葉や行動、2千年の歴史を経て、今へと続くのです。

マリアは時にイエスにないがしろにされているように感じる箇所があります。イエスは決して家族の繋がりや親を大事にすることをないがしろにはしていません。結婚を祝福し、親に対する正しい態度についても語り、親の子どもへの愛情や祈りに心留め、大事に受け止めてくださる方です。しかし、より重要なメッセージとしては血縁ではなく、「み心を聞いて行う者が私(神)の家族である」ことです。家族という繋がり、関係性を絶対化しない姿は、子どもを親の所有物としてではなく、神からの賜物である一つの独自の存在であり、神の言葉と行為に呼応する自由な存在と考えているからです。

さて、新生讃美歌167番「天にはさかえ」にある他の課題をあげておきましょう。「新生讃美歌」の訳は「讃美歌(1954年版)」の再掲であり、1節、3節はひらがなを漢字に変化させている以外は全く同じです。しかし2節の「いやしき賤の」を「み霊(たま)によりて」と変えています。

「賤(賤)」は日本語の意味としては、「卑しいこと」「身分の卑しい人」または「自分を卑下するという語」であります。「律令制下の賤民」として差別用語として用いられた歴史を持つ言葉です。マリア自身が語る時は「謙遜し、自分を卑下する意味」でしょうが、よりふさわしい言葉があるかもしれません。「賤」を差別用語として除いた点は良いとしますが、神が我らのような罪深い、神の赦し無しには立ち得ることができない者に関わってくださいという意味が失われてしまいます。「み霊」の表現の課題については、「第12回全国礼拝音楽研修会 報告書」や「讃美歌検討委員会 中間報告書」等をご参考ください。

マリアの歌を新たな「マグニフィカト」として掲載されている新生讃美歌152番「あがめます主を」はインドネシアのマルク地方に伝わる旋律で、同地では行進を伴う祝祭の音楽として歌われているそうです。この歌はゆっくり歌うとブレスが大変難しく

なります。2拍子のリズムを生かして4小節を一息で歌うことが必要になります。若々しい元気な力強いマリアであり、清楚さよりも、この力強いマリアの方が実際のイメージとして近いのかもしれませんが。なお、この讃美歌を歌う時、最後に大変ゆるやかなテンポで終わりの4小節、あるいは8小節を繰り返して歌えば、全体が落ち着くでしょう(その場合、言葉に応じて八分音符を除いてもよい)。

そして最後に私たちは想起したいのです。「マリア」とはどのような人だったのか。マリアはどのような働きをしたのか。マリアは特別な存在ですが、同時に、私どもと同じ誤りや勘違いをし、罪を犯すひとりの人間であったでしょう。しかし、私どもも「神我らと共にいます(インマヌエル)」の驚きと恵みを受け、そして、イエスの歩みに教えられ、その信仰と生き方を問われ、神の恵みと十字架の道を歩むことへ招かれているということではマリアと全く同じであります。聖書を読みつつ、讃美歌を歌いつつ、「クリスマス」の意味を今日、改めて考えることは、私どもにとって「新しいクリスマス」を迎えることへとつながるでしょう。

最初のクリスマスから、マリアもヨセフも、日々の子育てに、生活費を稼ぐのに大忙しです。しばらくは眠れないような日々も続いたことでしょう。「どうしてこんなことしないといけないのよ」と時につぶやくその様子は、クリスマスと年末を控えて仕事や子育て、神さまと教会の奉仕に多忙な私たち一人ひとりの姿でもあるかもしれません。でも、主はそのような私やあなたを聖霊によって神さまの働きに用いようとされているのです。きっと……。マリアが神の働きに参与することを決心しなければ、クリスマスが来なかったかもしれません。そして、今日、あなたが神の働きに参与することがクリスマスを迎える必要な働きとなります。

クリスマス、主の平和があなたとこの世界にうまれることをマリアの祈りに合わせ祈りつつ。

(参考文献:「讃美歌21略解」日本基督教団讃美歌委員会編、1998年、日本基督教団出版局。「礼拝と音楽」No.139、2006年秋号、日本基督教団出版局。)

# クリスマスの賛美歌紹介 2016

所沢キリスト教会牧師：坂本 献

『新生讃美歌』には一つのシーズンでは歌いきれないほどのクリスマス賛美歌が収録されています。

以下、クリスマス賛美歌メモをお届けします。クリスマス前のご準備にご参考ください。

## 153番「エッセイの根より」

歌詞も旋律もドイツのライン地方のカトリックのキャロルがもとになっています。元来はマリアへの賛歌で23節もありました。その後、1609年にミヒャエル・プレトリウスが編集した賛美歌集で最初の2節だけを採用し、さらに第2節の歌詞をマリア中心からイエス中心に改めました。その後ライツという人が1884年に『『まことの神 まことの人』救い主イエスを、バラの樹であるマリアから咲き出たバラの花」と賛美しています。なぜ「バラ」なのかと思われるでしょうが、旧約聖書「雅歌」2章1節に「わたしはシャロンのばら、野のゆり」とあり、イザヤ書35章1節に「野ばら」とあるのが根拠なのです。なお「エッセイ」とは統一イスラエル王国2代目の王でベツレヘム出身の「ダビデ」の父親の名前で、「根」は「ルーツ」という意味です。

## 171番「ダビデの村里」

マリアを「一人の母親」と書き、イエスは、我らと同じように、涙や悲しみ、喜び笑いがあったことが記される大変よい歌です。「共感してくださる主」が描かれている3節は秀逸。

## 174番「ベツレヘムの町」

1節「希望と恐れぞ ここに会う」という逆説的表現に信仰のあり方が教えられ、3節の「おごれるこの世に 悩みを持ち 心よわき者 主を迎えよ」という言葉には励まされます。

## 177番「マリアに抱かれて」

有名な“GREENSLEEVES”の旋律で、独唱あるいは数名で歌うのにふさわしい曲ですが、会衆賛美で歌う場合は、息継ぎやリズムの難しさや考慮する必要があります。楽譜は「律法」でないので、メッセージが伝わるようにリズムを変更してよいものです。テンポも色々な速度で考えてチャレンジしてみてもいいでしょうか。

## 179番「暗き夜に」

恵泉バプテスト教会で生まれた賛美歌です。イエス・キリストを「はじめのことば いのちのことば ひかりのことば」とヨハネ福音書1章の「ロゴス賛歌」（「ロゴス」＝「ことば」＝「神のことば」）から表現しています。「ことば」が「ことば」として終わらず、現実の行動となることは、私どもの語る「ことば」について示唆を与えるでしょう。この賛美歌はクリスマスイブの暗い中での最初の歌として歌ったりする方法などを私は考えます。「ことば」は（見えるものでないゆえ）闇の中でも響くのです。そして、信仰とは「聞く」ことによる事を思い起こさせます。また、「ことば」に応答して「ひかり」があったように「まことのひかり」「いのちのひかり」が闇をもはや闇とはしないのです（ついでに言えば「闇」という漢字は「音」が「門」の中に閉ざされ、音しか聞こえない状況を表したもの）。

隠れたクリスマス賛美歌として662番「行きて伝えよ」があります。アフロアメリカンスピリチュアルに由来する有名な曲です。八分音符が続く箇所は「ハネテ」（付点）歌ってもらって結構です。いろいろ工夫して歌ってみてください。歌いながら、私どもはクリスマスのメッセージを誰と共に分かち合うことへと招かれているのか、超えるべき「野や丘」は私にとって何を意味するのかと考えたいものです。

（参考文献：「讃美歌21略解」日本基督教団賛美歌委員会編）

# 教会音楽研修報告

## 2016年度 第一回『これなら弾ける、超簡単、賛美歌伴奏』

大井バプテスト教会 教会音楽委員会 河原由美子

大井バプテスト教会、教会音楽委員会では、これまで第一礼拝、第二礼拝のピアノとオルガンの奏楽者を対象にした研修会を重ねてきました。また、今後の礼拝奏楽者、様々な集会の賛美歌伴奏者の育成について、どのようにしたら良いか話し合いを続けてきました。すでに昨年、小中学生のピアノ経験者を夕礼拝などでその奉仕を励まして来ました。今回、将来を見据えて賛美歌の伴奏をしたいがどのようにしたら良いか分からない方、ピアノを習ったことはないが賛美歌を弾けるようになりたいと思っている方が、潜在的にいますのではないかと音楽委員会は考え、神さまからいただいているタラントを、神さまのご用のために使えるようにする訓練の場を設けよう。また、初めての挑戦を応援しようという考えに至り、ピアノ未経験者から、かつてピアノを習ったことのある方を対象に、間口を広げて研修会を開くことにしました。

内容は、『これなら弾ける、超簡単、賛美歌伴奏』と題し、～賛美歌をピアノで弾こうチャレンジ！！～としました。伴奏完成まで数回研修会を開くこと。年齢は問わない。楽譜は、教会備品編集や連盟出版の「新生讃美歌～やさしく弾ける～伴奏譜」から選曲し、音楽委員会で準備することにしました。

また、参加希望者は申し込み用紙に、ピアノ経験の有無、レベルの記載をしてもらうことにしました。

実際に案内を配布すると反響が大きく、10名の参加希望者が与えられました。

(当日参加できなかった2名を含め、次回は12の予定。)

この研修会の準備は、今後のことも含め、それぞれのレベルに合わせた賛美歌伴奏曲の選曲、レベルに合わせた5つのクラスに分け、それぞれに担当指導者を選び、備えました。

研修会当日(2016年8月21日)は、開始前にそれぞれのレベルに合わせた曲の中から、自分の好きな楽譜を手元において、いよいよ研修会の開始です。

お祈りからはじまり、菊地るみ子音楽主事のオープニングのお話は、『気持ちを楽にして、ピアノに挑戦しましょう。この会に出席したことで、必ずピアノの奉仕をしなければならないということはありません。まずは弾いてみましょう！』と良い雰囲気を始められ、一人ひとり菊地先生に指導をしていただき、はじめは緊張していた参加者も、次々とピアノに挑戦し、『ちょっと簡単過ぎ！？』との声も出て、お一人弾き終わるごとに挑戦できたことに拍手が起こり、和やかで楽しい研修の時となりました。

次回は、研修会名を『かんたんピアノ2』に改め、10月2日に第二回目を開くことになりました。次回は5つのクラスで、個別レッスンとなります。

この研修会に参加し、個別レッスンによって伴奏のコツを覚え、練習と経験を重ね、

将来、奏楽者や伴奏者として活躍する方が出ることへの期待、楽しみながら賛美歌を弾き、祈祷会、夕礼拝、各集会などの奉仕者が与えられる希望をいただきました。

賛美歌をピアノで弾く楽しみ、弾けたことの自信、弾けたら実際に伴奏してみたいと思う気持ち、上手に弾けたときの喜びは、何にも表せない充実と満足を感じることができ、もっと向上したいと言う気持ちが生まれます。

教会音楽委員会はこれからも試行錯誤しながら、教会の将来を考え、共に祈り合い、それぞれがいただいている賜物を喜んで神様にささげ、活かすことができるように、精一杯手助けをしていきたいと願っています。

# 第12回全国礼拝音楽研修会から励まされて

第12回全国礼拝音楽研修会では、たくさんの恵みと祝福をいただきました。朝の礼拝では教会音楽の研修会「初」参加で奏楽奉仕も未経験の清水栄光教会の石渡路子さんが証しに立ってくださり、その決意とチャレンジから参加者一同大いに励まされました。その後の奏楽奉仕と感謝のご報告をいただきました。



第12回全国礼拝音楽研修会にお誘いいただき、ありがとうございます。心から感謝します。清水栄光教会で5月22日から前奏、献金、後奏を弾くことができました。教会の皆さんが祈りながら、ドキドキしながら聞いてくださいました。声を出して皆さんと賛美するのは難しいですが、今ではピアノも習い始めて励んでいます。(清水栄光教会 石渡路子)

清水栄光教会の皆様からそれぞれ一筆箋でコメントをいただきました。

- ◆長い間、伴奏はパソコン再生でしたが、石渡姉が立ってくださり、雰囲気が変わってきました。奏楽に限らず「やってみよう」という気持ちが広がってきて嬉しいです。姉妹の背中を押してくださりありがとうございます。T. S. さん
- ◆長い間、賛美歌をヒムプレイヤーの奏楽で歌っていた中、この度、石渡氏の伴奏の音色で心を清められ、一週間の元気をいただくことができ感謝しています。Yさん
- ◆ヒムプレーヤの伴奏は便利ですが、ヒムプレーヤに引きずられるような感じで、私たちの歌唱に沿ってということにはなりません。奏楽と歌唱との協調があつて賛美となると思います。今回、オルガン奏楽が始まったことで、希望が持てるようになりました。嬉しいことです。さらなる技術向上のためにも祈っています。S. I. さん

第12回全国礼拝音楽研修会の報告書を11月9日に諸教会・伝道所に各一部ずつ、発送しましたが、お手にとってご覧になったでしょうか？「基調講演」、「賛美歌ことばのフォーラム」などテープ起こしをしたものも入っており、礼拝と賛美の学びに活用することができます。参加者には一部ずつを11月30日の全国発送で送付いたしました。ほか、必要な方はどうぞお申し出ください。

第12回  
全国礼拝音楽研修会 報告書

テーマ：「礼拝をいきる ーへいわの息吹ー」  
2016年5月4日(水)ー6日(金) 於・天城山荘



主催：日本バプテスト連盟宣教師教会音楽部 教会音楽専門委員会

# ♪ 新生讃美歌CDROMバージョンアップ版IIを使用して♪

『新生讃美歌CDROMバージョンアップ』が新機能をあらたに加わり、この夏、販売されました。

音の高低や速度変更可能な操作に加え、礼拝式順で賛美歌を選び順番にし、伴奏ボタンをクリックするだけで演奏をスタートさせる機能も入りました。これまでのことばの検索、聖書引用賛美歌の検索に加えて項目索引による検索も可能となります。どうぞ、ご活用ください！

以下、複数部ご注文され、使用された教会からの声をいただきました。

## 北山バプテスト教会

毎回の祈禱会でCD-ROMIIを使用しています(奏楽者がいません)。主日礼拝では、年に数回ですが、奏楽者がいない場合にのみ使用しています。アカペラで歌うのは難しいので、とても助かっています。ところで、今回のIIへのバージョンアップですが、アーメンが付けられるようになったことや、テンポやキーが自由自在に変更できるといった改良点を嬉しく思っています。しかし改良をお願いしたいと感じる点もありました。たとえば、アーメンはデフォルトで「オン」(つまり譜面通り)にして頂きたいと思いました。うっかり、チェックを入れ忘れてしまうことがあるからです。また、前のバージョンでは可能であった「一時停止」機能が失われたのは残念でした。1・2番だけ歌いたい時などに困るからです。技術的に可能かどうか分かりませんが、アップデート用の修正プログラムを作成して頂けると大いに助かりますので、ぜひともお願いします。

## 豊橋キリスト教会

- ・知らない曲もこのCDROMで確認できるようになりました。(複数名)
- ・予め選んだ曲を順に自動演奏してくれるのは助かります。
- ・教会以外での葬儀や記念会などで使おうと思います。
- ・書章節検索で関連する曲が絞れるのは嬉しいです！
- ・再生する曲の節数の調整ができると良い。
- ・曲を選択した際に歌詞が表示されるが、間も無く消えてしまい残念。
- ・選んだ曲の歌詞が毎回表示されないようにしてほしい。
- ・「歌詞」ボタンをクリックして表示させてもテキストコピーができない。
- ・WinXPで使えるようになってほしいです(礼拝堂備付PCがXP)

## ご要望への回答として

- ➡アーメンをデフォルトで「オン」(譜面通り)のご要望に関して…『新生讃美歌』の楽譜ではアーメンが参考として付されており、「アーメン」を歌わない教会もあることから、現行の機能は変更しない方向です。
- ➡節数の調整は、現行プログラムでは楽譜の節設定以外の変更は難しく、修正は検討していません。
- ➡下線部分(一時停止、歌詞表示)は検討中で、今後反映させていきます。
- ➡今後の修正は「アップデート用修正プログラム」で対応できるように検討しています。

◆新生讃美歌CDROMバージョンアップ版は第2回目締め切り12月15日を過ぎても受け付けます。

◆新生讃美歌CD I と II のセットが3500円から**3000円**となりました。

◆新生讃美歌小型判の「お祝い価格」(バプテスト祝い、〇〇祝いなど各種お祝い、進級) **1500円**もどうぞ活用ください！

## 新生讃美歌ブックレットの編集がはじまりました！

2003年の『新生讃美歌』発刊から13年、『新生讃美歌』の曲紹介や、研修会、ニュースレターなどを通して、推進をすすめてきました。この度、今までの推進活動の蓄積をベースに『新生讃美歌』を礼拝でよりよく用いるための手引きとなることを目指した「新生讃美歌ブックレット」の企画・編集がはじまりました。内容は、研修会で取り上げてきたことや、諸教会からお寄せいただいたご意見への回答、賛美歌検討委員会議で話されてきたことのほか、諸資料など以下の項目と内容が予定されています。これらのほかにも、この視点も！など、ご意見がございましたらどうぞお寄せください。また「用語解説」で取り上げてほしい用語や歌詞の「ことば」がありましたら、[ehara@bapren.jp](mailto:ehara@bapren.jp)までお知らせください。よろしくお願いいたします。

### 「新生讃美歌ブックレット」参考資料集 項目案

- I 総論 より良い礼拝賛美を求めて（『新生讃美歌』の特徴、信仰告白としての賛美歌、礼拝の中の賛美歌、音楽的な充実、教会での取り組み）
- II Q&A 『新生讃美歌』を知る（アメンについて、楽譜の情報、著作権）、よりよい賛美をささげるために（曲の背景を知る、選曲、不快語・差別語、ハーモニー、伴奏の工夫）
- III コラム 教会からの問いかけ、天皇制用語について、賛美歌創作、プレイズソング
- IV 各種資料 用語解説（神学・国語）、不快語・差別語とことばの提案、6特別委員会アンケートから

## イースターに向けて 聖歌隊楽譜紹介

来年のイースターは4月16日。年が明けて聖歌隊曲選曲、練習に取り組まれる教会もあることでしょう。連盟の聖歌隊楽譜のイースター曲をご紹介します。（声部と★は難易度）

### 03-5 み上げよ主の十字架（228）SATB ★★★

イギリスの古今聖歌集補遺（1916）に紹介された賛美歌でヨハネ12：32をもとに創作されました。主のあがないによって新たに示される道を踏みしめるように歌っていきます。

### 04-8 主イエスは尊き（223）SATB ★★★

アイザック・ワッツによる詞にあらたな作曲が施されています。キリストの受難を表す節ごとの前半は語るように歌い、後半は信仰告白として力強く救いの喜びを証していきましょう。

### 08-1 この日イエスは復活された（241）SATB ★★

7世紀にギリシャ正教で歌われていた賛歌で、イースター前夜の真夜中のミサでは、12時にキャンドルで火がともされると同時に、大きなドラムとシンバルをもってロ々に「キリストはよみがえられた！」との声とともに賛美したといわれます。前奏は歌によって静かにはじめられ、節からは力強く歌っていきます。最後のコーダは礼拝の後奏として賛美してもよいでしょう。

### 08-4 主の流された尊い血しお（236）SATB ★

ヘブライ9：22に基づく賛美歌で質問と答えの形式で賛美歌が作られており、Nothing but the blood of Jesus が応答として繰り返されていきます。「新しくされる」「つくりかえられる」「平和にみたまされる」のメッセージを会衆とわかちあうように歌っていきましょう。

### 15-1 輝きのこの日（247）二部 ★

宗教改革のルターに影響を受けたヘルマンによるコラールで、復活の喜びを力強く歌う編曲となっています。1、2番はユニゾン、3番はメロディーとオスティナート（簡単なフレーズの繰返し）、4番は輪唱、5番はユニゾンと、比較的歌いやすいものです。5節は会衆も加わってもよいでしょう。

※楽譜注文用紙はホームページからダウンロードされるか、048-883-1091までお問い合わせください。